



第5回ライフサイエンスビジネスMOT講座 「ライフサイエンス・アントレプレナー入門塾」



講師プロフィール

2016年6月25日（土）

オリエンテーション



森 一郎

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 特命教授

【概要】

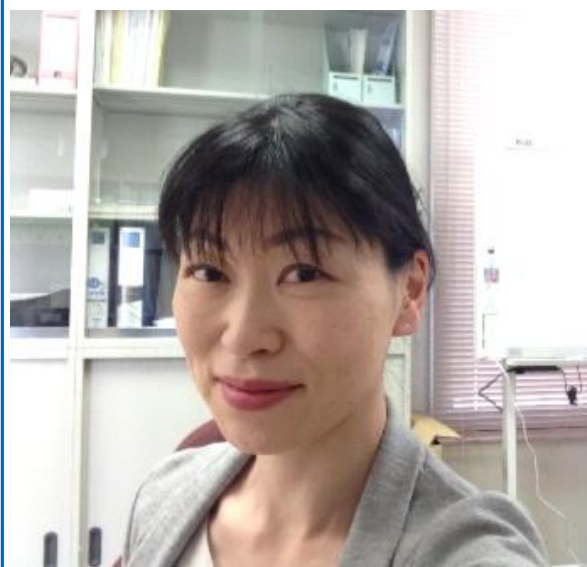
オリエンテーションでは本プログラムの背景、目的、運営等について説明します。講義から様々な事を学んで頂き、講師を含めた参加者同士の交流促進を含め、イノベーションにつながるようなアイデアや活動が出てくるようプログラム全体をナビゲートできるよう努めます。

【略歴】

1984年 京都大学 工学部工業化学学科 修士課程修了
1988年 University of California, Berkeley Ph.D. 取得
1988年 Massachusetts Institute of Technology 研究員
1989年 日本チバガイギー株式会社 国際科学研究所
1997年 Harvard Medical School 留学
1998年 日本グラクソ株式会社 筑波研究所
2003年 ファイザー株式会社 名古屋研究所
2008年 ラクオリア創薬株式会社 事業開発担当
2010年 Sapalaorganics Private Limited Scientific Advisor
2011年 神戸大学大学院医学研究科統合創薬化学分野 客員教授
2012年 神戸大学連携創造本部 特命教授（地域イノベーション 人材育成）
2016年 4月より現職

2016年6月25日, 9月24日, 12月3日(土)

デザイン思考ワークショップ／ロジカル思考ワークショップ



祇園 景子

滋賀医科大学 バイオメディカル・イノベーションセンター・特任助教

【概要】

米国デザインコンサルタント会社IDEOは、デザイナーが0(ゼロ)から1を作り出す際のマインドセットと思考について、デザイナーでない人たちも実践できるように手法を提案しました。それがデザイン思考と呼ばれ、イノベーションを創り出すアプローチとして注目されています。本講義では、新しいアイデアを生み出すプロセスを、デザイン思考、システム思考、ロジカル思考を用いてグループワークを通じて体験していただきます。多様な人たちと一緒に対話し、ながら新しいコトを考えていきます。

なお、ワークショップの手法・手順は、基本的に慶應義塾大学システム・デザインマネジメント研究科が文部科学省からの委託で開発した「イノベーション対話ツール」に従っています。ツールの解説書は文部科学省のホームページ(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1347910.htm)からダウンロードできます。

【略歴】

滋賀医科大学バイオメディカル・イノベーションセンター 特任助教(2016～現在)
神戸大学連携創造本部応用構造科学産学連携推進センター 研究員(2013～2016)
神戸大学医学研究科 特命助教(2012～2013)
公益財団法人新産業創造研究機構TLOひょうご 産学連携コーディネーター(2011～2012)
サントリーホールディングス株式会社R&D企画部植物科学研究所 研究員(2008～2011)
神戸大学遺伝子実験センター 教育研究補佐員(2004～2008)
神戸理化学研究所発生・再生総合科学研究センター テクニカルスタッフ(2003～2004)
福山大学大学院生命工学研究科 博士(工学)取得(2011)
神戸大学大学院自然科学研究科 修了(2002) 神戸大学農学部 卒業(1999)

2016年6月25日 (土)

リーダーシップと組織パフォーマンス



能見 貴人

Director, External Science & Partnering, Sanofi Global R&D

【概要】

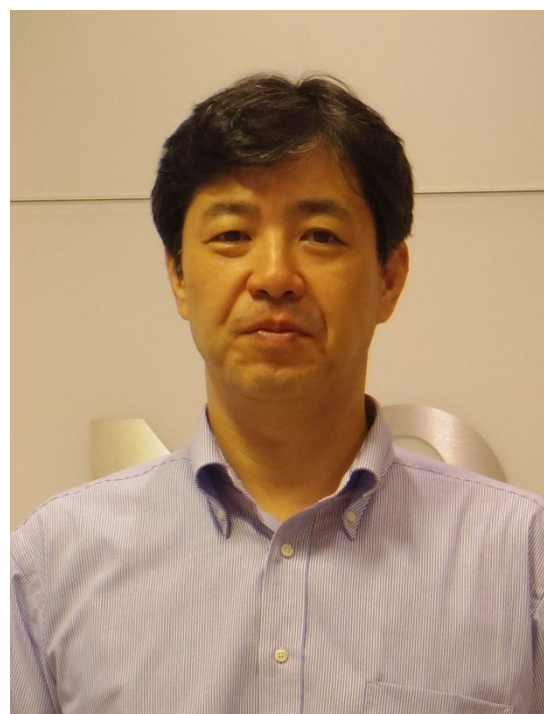
今日、あらゆる局面でリーダーシップの重要性が唱えられているが、一方でリーダーシップの本質とは何かという問いに明確に答えられる人は少ない。多くの場合リーダーシップとマネジメントが混同され、組織でのリーダーシップ開発が間違った方向に進められているケースも少なくない。本講では、リーダーシップに関する様々な疑問に答えつつ、リーダーシップの本質を定義し、リーダーとして心に留めておくべき要素を解説する。

【略歴】

・Director, External Science & Partnering, Sanofi Global R&D(2014～現在)
・製薬研究開発&事業開発 コンサルタント(2007～2014)
・リーダーシップ開発 コンサルタント(2007～2014) ・幼児の創造性開発のための教室 主宰(2008～2014)
・GSK筑波研究所 所長(2002～2007) ・GSK筑波研究所 生物科学研究部 部長(1999～2007)
・ノバルティス 移植研究領域 マネジャー(1996～1999)
・岡山大学工学部生物応用工学科 助教授(1990～1996)
・大阪大学産業科学研究所 助手(1986～1990) ・Roche分子生物学研究所 ポスドク(1989～1990)
・東京大学大学院薬学研究科 修了(1986)薬学博士 ・岡山大学薬学部 卒業(1981)

2016年7月16日（土）

科学技術イノベーションとアントレプレナーシップ



忽那 憲治

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 副研究科長
兼 経営学研究科 教授

【概要】

構想した事業を大きく成長させるには、人・物・金の3つが必須である。設計した製品・サービスのビジネスモデル(物)を実践するために必要な資金調達(金)、すぐれた経営チーム(人)をどのように得ていくか。事業をグローバルなレベルで大きく成長させようと思えば、人・物・金を高度なレベルで融合させなければならない。その際、人・物・金の順番ではなく、物・金・人の順でできるだけ迅速に事業を軌道に乗せるための基礎をいかに築くかが重要である。物(ビジネスモデル)を徹底的にブラッシュアップしない限り、金(資金調達)の問題も、人(経営チームの組織)の問題もなかなか解決できるものではない。free株式会社と株式会社ユーグレナのケースを紹介しながら、人・物・金の融合プロセスを解説する。最後に、科学技術イノベーションを推進する上でのアントレプレナーシップ領域の知識の重要性を述べる。

【略歴】

1964年愛媛県生まれ。1983年、愛媛県立松山東高等学校卒業。1989年、大阪市立大学商学部卒業。1994年、大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程修了。博士(商学)。大阪市立大学経済研究所専任講師、助教授、神戸大学大学院経営学研究科助教授、教授を経て、2016年より現職。

専門は、アントレプレナーファイナンス、アントレプレナーシップ、ビジネスプランニングとリスク分析、中小企業金融。Journal of Finance、Journal of Financial Economics、Review of Financial Studies、Journal of Banking and Financeなどの海外トップジャーナルに論文多数。

著書に、『アントレプレナーシップ入門』有斐閣(2013年)、『MBAアントレプレナーファイナンス入門』中央経済社(2013年)、『ベンチャーキャピタルによる新産業創造』中央経済社(2011年)、『中小企業が再生できる8つのノウハウ』朝日新聞出版(2010年)、『IPO市場の価格形成』中央経済社(2008年)、『ベンチャーキャピタルハンドブック』中央経済社(2006年)などがある。

また、株式会社科学技術アントレプレナーシップの取締役、株式会社洸陽電機の社外取締役、NPO現代経営学研究所(RIAM)戦略的企業家教育センター長を務めている。詳細は下記の戦略的企業家教育センター(SEEC)のウェブを参照。 <http://riam.jp/~seec/>

2016年7月16日（土）

ビジネスで求められる知財活用



山本 健策

山本特許法律事務所 弁護士

【概要】

これからビジネスを行うにあたって求められる知財活用について、そもそも「知財」とは何か？というところからお話しさせていただきます。

【略歴】

1997年 京都大学薬学部薬学科卒業

1999年 京都大学大学院薬学研究科修士課程修了

2005年 弁護士登録(58期)

2005年 アンダーソン・毛利・友常法律事務所

2011年 弁理士登録

2012年 米国University of Southern California School of Law (LL.M.)

2012年 米国Morrison & Foerster LL.P. (San Diego Office)

2012年 山本特許法律事務所開設

2016年8月6日（土）

Watsonと医療の世界



溝上 敏文

日本IBM Watson 事業部 Watson Healthcare 事業開発部長

【概要】

2011年の米国のクイズTV番組で人間のチャンピオンに勝利を収めたコンピューターが話題になってから既に5年が経ち、その間多くの産業分野での応用展開が進められてきている。その中で最も反響の大きかった分野が医療・ヘルスケア産業であり、我々個人の体内で起きる生化学的反応が様々なテクノロジーによってデジタルデータ化され、生命反応や病気のメカニズムを明確にしていくために大規模な医療ビッグデータを処理するエンジンとしての活用が期待され、その動きが加速している。

Watsonの医療応用における現状について紹介し、今後の展望について議論させていただきたい。

【略歴】

1989年 日本IBM株式会社 入社

1992年～1996年 米国IBM勤務 New York にて国際資金決済システムの構築・導入プロジェクトの現場指揮

1997年～2002年 PC/Server テクニカルサポートのリーダーを務める

2003年～2006年 サーバー製品テクニカルサポートマネージャー

2007年～2008年 サーバー製品開発マネージャー

2009年～2009年 半導体事業部 営業部長

2010年～2010年 役員補佐

2011年～2015年 成長戦略(クラウド、スマートシティ)ビジネス開発部長

2016年 Watson 事業部 ヘルスケア事業開発部長

2016年8月6日（土）

企業価値向上のための法務経営戦略



井垣 太介

西村あさひ法律事務所 弁護士／ニューヨーク州弁護士

【概要】

企業そのものは永続的な事業の発展を目指す場合でも、オーナーには通常EXITと呼ばれるゴールが待っています。シーズをある程度まで開発し製薬会社等にライセンスアウトする、会社の価値を高めて保有株式を売却する、IPOによって上場市場に参加し株式を売却するなど、方法は様々で、資金化の後にはその資金を利用して更に次の事業に投資するという成長プランもありえます。ところで、EXITの際には必ず第三者によってその会社の価値が評価されます。事業の価値を生み出す権利や契約関係に問題がないかがチェックされるとともに、事業の価値を毀損するリスクの有無も厳しく判定されます。価値もリスクも一夜にして作られるものではなく、起業したその日からの「成績表」が全て弁護士や会計士などの専門家の厳しいチェックを受けることになるのです。本講座では、資金調達時、ライセンスアウトの際、そしてとりわけEXIT時に後悔しないための法務経営戦略について、トラブル事例や成功例と共に解説させていただきます。

【略歴】

1998年 東京大学法学部卒業 2001年 弁護士登録 2007年 Northwestern大学ロースクール卒業(LL.M.)

2007年-2008年 米国のLatham & Watkins法律事務所

2008年 米国ニューヨーク州弁護士登録

2005年-2006年 大阪大学大学院医学系研究科 研究公正委員会委員

2005年-2006年 特定非営利活動法人臨床研究・教育支援センター 倫理審査委員会委員

2005年 大阪市立大学大学院法学研究科 非常勤講師

2009年- 大阪大学大学院医学系研究科 臨床試験利益相反委員会委員

2009年- 日本予防医学リスクマネジメント学会 会員

2010年- 社団法人医療国際化推進機構 理事

2016年- 大阪大学大学院医学系研究科 招へい教授

2016年9月3日（土）

医薬品開発、製造のトレンドと課題



梶原 大介

GEヘルスケア・ジャパン株式会社 ライフサイエンス統括本部
ストラテジックアカウント営業部 SFEマネージャー

【概要】

医療の高度化、個別化が求められる中、医薬品もそれに適応した開発が求められている。GE Healthcareは医薬品開発における研究・製造用機器を含めた様々なソリューションを提供している。今回は、特にバイオ医薬品の研究開発に関わる技術を中心に、GE Healthcareの取り組みをお話する。合わせて、医療技術開発に関わる取り組みに関してもお話する。

【略歴】

- ・大手製薬会社のお客様に最適なソリューションをどのようにして届けるべきなのかを考える傍ら、大阪大学リーディングプログラムの外部担当教員を担当し、ライフサイエンスにおける人材育成にも注力
- ・2000年、岡山大学大学院生体機能応用工学専攻修士課程を修了後、アマシャム・ファルマシア・バイオテク株式会社に入社
- ・2006年、岡山大学大学院自然科学研究科にて博士(工学)の学位を取得後、GEヘルスケア バイオサイエンス株式会社に入社
- ・プロテオミクス、細胞イメージング、分子間相互作用技術の学術サポートを経て2013年よりバイオプロセスの学術マネージャーとなる。2016年より現職

2016年9月3日（土）

医療・創薬におけるICTの可能性



奥野 恭史

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授
独立行政法人理化学研究所 RC副グループリーダー/
客員主管研究員(併任)

【概要】

スーパーコンピュータなど最近のコンピュータの演算能力の向上は著しく、実験科学、理論科学に次ぐサイエンスとして「シミュレーション科学」と「ビッグデータ科学」の重要性が急速に高まっている。医療分野では、近年の計測・観測機器、ICT技術の著しい進展にともない、ビッグデータ時代に突入したと言われ、パーソナルゲノムなどのビッグデータ解析手法の研究開発が急務とされている。一方、我が国では、スパコン「京」に続き、2020年完成予定の次期スパコン・ポスト「京」の開発もスタートした。さらには、人工知能研究の強化も検討されており、今後、スーパーコンピューティング技術やビッグデータ解析技術、人工知能技術が、我が国の医療や創薬の発展を加速するキーテクノロジーとなることは言うまでもない。本講演では、これら進展の著しいICTの医療・創薬応用への可能性について議論したい。

【略歴】

平成5年 京都大学薬学部卒業、平成12年博士(薬学)学位取得、平成20年同大学大学院薬学研究科教授を経て、平成26年より京都大学大学院医学研究科教授(現職)。平成25年より理化学研究所 RC副グループリーダー等、先端医療振興財団 部長等(併任)。

医療分野の新産業創出



宮田 俊男

日本医療政策機構 エグゼクティブディレクター
(内閣官房 健康・医療戦略室 戦略推進補佐官)
神戸市役所医療産業都市戦略推進アドバイザー

【概要】

社会保障費の急激な増加、世界で類を見ないスピードで突入する超高齢化社会、さらには人口減少など日本の社会保障制度は多くの課題を抱えている。一方で、世界的に新薬・新医療機器・再生医療・ヘルスケアIT領域の競争は激化しており、社会保障制度を維持しつつ、イノベーションも同時に促進することが求められている。政府の医療制度改革、産官学連携によるオープンプラットフォーム構築、イノベーション論、健康経営、マイナンバー、ビッグデータ、国家戦略特区など最新的话题を紹介する。

【略歴】

東京都出身。1999年早稲田大学理工学部機械工学科卒業、2003年大阪大学医学部医学科卒業(3年次編入学)。外科医として大阪大学医学部附属病院等で手術、治験、臨床研究や再生医療等に従事した後、臨床現場の課題を行政的に解決するべく厚生労働省に入省し、現場を知る医系技官として税・社会保障の一体改革、臨床研究関連予算の設計、薬事法改正、再生医療新法の立案、先進医療制度改革、特定看護師の初期設計をはじめ数々の医療制度改革に関わる。東日本大震災時には第一陣で福島県に派遣され、復旧に尽力。その後、東北の医療機器開発支援の基金の創設を立案するなど復興政策にも関わった。

厚労省退官後は、2013年9月より日本医療政策機構に参画し、現場と政策の谷を埋めるため、政策提言を企画・立案している。同年11月から、内閣官房健康・医療戦略室の戦略推進補佐官にも任命されている。その他、京都大学産官学連携本部客員教授、大阪大学産学連携本部特任教授、東北大学大学院医学系研究科客員教授(創生応用医学研究センター)、大阪大学大学院医学研究科招聘教授(心臓血管外科学)、神奈川県顧問、川崎市参与(国際戦略拠点形成アドバイザー)、神戸市医療産業都市戦略推進アドバイザー、横浜市立大学顧問、国立がん研究センター企画戦略局政策室長、三重大学臨床研究開発センター顧問、医薬品医療機器総合機構(PMDA)専門委員等を兼務。早稲田大学、慶応大学、青山社中等で社会保障学、イノベーション、リーダーシップ、レギュラトリーサイエンスの講義を行い、若手の教育にも尽力している。なお現在も外来診療や手術にも従事している。医薬品医療機器産業、地域包括ケアシステム、規制改革、臨床研究、再生医療、産官学連携など国内外で講演多数(日本医学会総会、米国IOM、ハーバード大学など)。NHKクローズアップ現代、深層ニュース、プライムニュースにも出演。

日経メディカル「医師こそ戦略思考を」 / 総合診療のGノート「どうなる日本！？こうなる医療！！」連載中

著書 医師主導治験、企業治験、医療機器治験 改正GCP省令のポイント(じほう)、製薬企業クライシス(エルゼビア) / Twitter @ToshioMiyata

ライフサイエンスクラスターの取り組み紹介

- ①健都（大阪府商工労働部）－ 池田 純子
- ②けいはんな（(公財)関西文化学術研究都市推進機構）－ 瀬渡 比呂志
- ③京都リサーチパーク（京都リサーチパーク株式会社）－ 田畑 真理
- ④神戸医療産業都市（神戸市医療・新産業本部）－ 三重野 雅文
- ⑤英国クラスター（在大阪英国総領事館）－ Patrick Bannister（予定）
- ⑥彩都（バイオ・サイト・キャピタル株式会社）－ 荻野 真一

2016年10月15日（土）

①「健都」における健康・医療クラスターの形成にむけて



池田 純子

大阪府商工労働部 成長産業振興室
ライフサイエンス産業課長

【概要】

平成30年度を目途に国立循環器病研究センターが吹田操車場跡地に移転することを契機に、周辺一体を「北大阪健康医療都市（愛称：健都）」と位置づけ、「健康と医療」をコンセプトとしたクラスターの形成をめざし、様々な機能を集積する取組みが進められています。

今回は「健都」について、最新の進捗状況と、府の産業面における狙い等をご紹介します。

【略歴】

2014.4～ 商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課長
2012.4～ 健康医療部保健医療室参事
2009.4～ 健康医療部保健医療室課長補佐
2006.4～ 商工労働部産業労働企画室課長補佐
1997.4～ 商工部工業課主査

2016年10月15日（土）

②けいはんな学研都市の動向



瀬渡 比呂志

公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 常務理事

【概要】

関西文化学術研究都市建設促進法が制定されて30年。産官学が連携し、クラスター型開発を通じて、文化学術研究施設が集積、人口も増え続けるけいはんな学研都市。多様な主体による様々なネットワークが生まれ、新たな価値を創造する都市として花開きつつあるけいはんな学研都市の現状と可能性を紹介する。

【略歴】

1979年 京都大学建築学科卒業
1979年 宅地開発公団
1981年 住宅・都市整備公団
1999年 都市基盤整備公団
2004年 独立行政法人都市再生機構
大阪駅北都市整備事務所長、関西文化学術研究都市事業本部長等
2014年 現職

2016年10月15日(土)

③京都リサーチパークのご紹介



田畑 真理

京都リサーチパーク株式会社 開発企画部 部長

【概要】

1989年開業の京都リサーチパークは、国際的にも稀な民間資本100%で運営される新産業創出拠点である。国内で唯一、国・府・市の支援機関が揃い、技術と経営両面のサポートを受けられる。JR京都駅から車で10分・在来線乗換で一駅目から徒歩5分という好立地と、大阪ガスグループ運営で電源の冗長性が担保されていることが評価され、現在5.6haの敷地に15棟のビルが並び4,200人が活動している。380社/団体を数えるテナントは、個人事業主から数百名を擁する大企業まで、ICT・バイオ・材料・エレクトロニクス・法務・金融等、規模も業種もさまざまである。なかでも、都市型立地で換気・給排水・ガス配管を備えるレンタルラボは珍しく、アセットフリー志向の大手製薬がオーダーメイドの研究拠点を設けたり、大型のナショナルプロジェクトで研究者がキャンパス外にラボを確保されたり、といった形で利用されるケースが多い。それなりの初期投資が必要で小規模事業者には敷居が高かったが、2010年に地元行政・京都大学・京都商工会議所の共同プロジェクト「京都バイオ計測センター」が入居してからは、最先端の分析機器や共用実験室を時間単位でレンタルできるスペースが生まれ、大学発ベンチャーや新規事業プロジェクト等ライフサイエンス系スタートアップが手軽に研究開発できる環境が整い活性化している。

【略歴】

1986年 京都府立大学農学部農芸化学学科卒業。
同年 大阪ガス株式会社入社。食品研究、家庭用ガス機器の商品開発に従事。
1999年 京都リサーチパーク株式会社出向。コンテンツビジネス、企業誘致、研究棟開発等に従事。
2005年 株式会社アイさぽーと出向。技術経営(MOT)研修営業、調査・コンサルティングに従事。
2008年 大阪ガス株式会社帰社。環境報告書編集、CSR室長、ダイバーシティ推進マネジャー。
2015年より現職。

2016年10月15日(土)

④新たなステージへ挑戦し続ける神戸医療産業都市の取り組み



三重野 雅文

神戸市医療・新産業本部医療産業都市部長

【概要】

神戸医療産業都市の構想開始から17年を経て、創薬・再生医療・医療機器等の基盤整備が進み、進出企業・団体数も300社を超えるなど、神戸医療産業都市は日本最大級のバイオメディカルクラスターへと成長しております。
研究機関や大学、企業等が多く集積し、イノベーションを創出し続ける場として展開する神戸医療産業都市の取り組みや魅力についてご紹介させて頂くとともに、この入門塾を通して、将来グローバルに事業展開を行える人材が次々と創出され、次代のリーダーとしてご活躍されていくことを大いに期待しております。

【略歴】

平成 2年 3月 神戸大学教育学部卒業
平成 2年 4月 神戸市採用
平成17年 4月 建設局総務部庶務課経理第1係長
平成20年 4月 交通局職員課主幹
平成22年 4月 企画調整局医療産業都市構想推進室主幹
平成23年 4月 企画調整局医療産業都市推進本部調査課長
平成27年 4月 先端医療振興財団経営企画部長
平成27年 6月 先端医療振興財団常務理事
平成28年 4月 医療・新産業本部医療産業都市部長

2016年10月15日(土)

⑤Life Science Innovation in UK



Patrick Bannister

Acting Consul-General, British Consulate-General Osaka

【概要】

The UK has a well-established reputation for life science discovery and innovation; from penicillin, vaccines and modern anaesthesia, to unravelling the structure of DNA. Today the UK is a leading centre in Europe's life science industry and research landscape. The UK hosts a range of world-leading initiatives to accelerate innovation on cutting edge technologies - including regenerative medicine and gene therapy, precision medicine and genomics, digital medicine and big data analytics. Partnership with international partners Japan on research and development has been a core part of the UK's approach.

I will talk through some of these initiatives, and the challenges and opportunities of international collaboration on life science innovation.

【略歴】

2007 Awarded B.A. (Hons), University of Cambridge

2007 Deputy Head, All-Party Groups for Design and Innovation, Sustainable Resources, UK Parliament

2008 Joined Civil Service Fast Stream - Department for Culture, Media and Sport; Department for Business, Skills and Innovation

2010 Joined Foreign and Commonwealth Office

2012 Seconded to Irish MFA for Presidency of EU Council

2013 Seconded to Lithuanian MFA for Presidency of EU Council

2014 Started as Deputy Consul-General, British Consulate-General Osaka; Deputy Head, Science and Innovation Network Japan

2016年10月15日(土)

⑥バイオベンチャー・研究機関の集積地 “彩都ライフサイエンスパーク”



荻野 真一

バイオ・サイト・キャピタル株式会社

インキュベーションビジネス部 チーフインキュベーションマネージャー

【概要】

“彩都ライフサイエンスパーク”は、大阪大学吹田キャンパスのほど近くに位置し、医薬基盤・健康・栄養研究所をはじめとした公的／民間の研究機関や、3棟の彩都バイオインキュベーション施設などが集積する、バイオベンチャーの育成に最適な環境が整ったライフサイエンス関連研究の先進地です。

今回は、近年の彩都発バイオベンチャーの成果や、周辺のアカデミア、公的／民間研究機関との活発な人的交流の事例などを、“彩都ライフサイエンスパーク”の全体像とともに、最新のトピックスを織り交ぜながらご紹介します。

【略歴】

2002年、京都大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程中退後に、ベンチャー企業でIPOを体感。その後、特許事務所にて特許・知財戦略に関する知識・ノウハウを蓄積。2011年バイオ・サイト・キャピタル株式会社に入社。彩都バイオインキュベーション施設のチーフインキュベーションマネージャーとして入居企業の事業支援やネットワーク形成を行っている。2012年からは文部科学省(現在はJST)の大学発新産業創出拠点プロジェクト(START)の事業プロモーターとして、アカデミア発ベンチャーを目指す複数のプロジェクトに参画。愛知県出身。

2016年11月5日（土）

ジャパン・バイオデザイン ー革新的医療機器を産み出すエコシステムの構築に向けてー



八木 雅和

大阪大学 国際医工情報センター

【概要】

シリコンバレーで著しい成功を収めている課題発見型製品開発手法（スタンフォードバイオデザイン）をもとに開発されたジャパン・バイオデザイン プログラムを紹介し、日本の強みを生かしながら、医療・ヘルスケア分野においてイノベーションを起こすためにどのように製品をデザインすればよいかについてお話をいたします。

【略歴】

- 2003年 東京大学大学院工学系研究科電子工学科 博士課程修了
- 2003年 大阪大学大学院歯学研究科 助手
- 2006年 大阪大学歯学部附属病院 講師
- 2008年 大阪大学臨床医工学融合研究教育センター 特任准教授(常勤)
- 2014年 スタンフォード大学バイオデザイン グローバルファカルティトレーニング修了
- 2015年 大阪大学国際医工情報センター 特任准教授(常勤)
ジャパン・バイオデザイン プログラム・ディレクター

2016年11月5日（土）

グローバル製薬企業の動向



Jeremy Gale Pfizer Inc. Executive Director

【概要】

High levels of programme attrition continue to threaten the sustainability of the pharmaceutical industry in its current model. A leading cause of development candidate attrition remains lack of efficacy in phase 2 proof-of- concept studies, which is often only revealed following substantial investment. In recognition of this, the Industry continues to develop and apply innovative strategies for early decision making, facilitating investment in those programs with the highest probability of technical success. In recent years there has been a dramatic increase in the use of biomarkers to demonstrate the engagement of target pharmacology and by extension, to predict clinical efficacy. Further, application of techniques of modeling and simulation is being made to drive down timelines and costs to key decision points. In parallel, there has been an increased focus on developing an understanding of the translational value of the experimental models, both preclinical and clinical, upon which we make decisions across the continuum of drug discovery and development.

Examples of these approaches, taken from several therapeutic areas for drug development, will be presented for discussion to illustrate the potential value of these strategies.

【略歴】

- **Education** 1985 BSc Pharmacology 1988 PhD Neuroscience and Pharmacology 2005 Diploma and University Professional of Advanced Studies in Pharmaceutical Medicine 2011 Postgraduate Award in management of Chronic Kidney Disease
- **Career**
 - 1988-1995 **Glaxo Group Research**
 - Research Leader, GI Pharmacology
 - 1995-present **Pfizer Global R&D**
 - Section Leader – GI Biology
 - Manager- Sexual Health
 - Associate Director-Experimental Medicine
 - Director and Senior Director-Translational Medicine and Clinical Research
 - Senior Director/Executive Director and Project Team Leader – Inflammation and Immunology Research Unit
- **Expertise** Early clinical drug development, biomarker research, translational medicine
Gastroenterology, Hepatology, Nephrology, Women’s Health, Dermatology

2016年12月3日（土）

バイオベンチャーの目論見書解説



松田 一敬

合同会社 SARR 代表執行役員

【概要】

バイオベンチャーの目論見書を読み、ビジネスモデルと知財戦略を理解する

【略歴】

慶応大学卒業後、山一証券(株)証券引受部を経て、同社ロンドン現地法人にて中東、アフリカ、東欧諸国等を担当。国内初の地域密着型VCである北海道VC設立。2000年6月に札幌Biz Cafeを設立、サッポロバレーのITベンチャーを支援。2000年9月、国立大学発ベンチャー第1号の設立に関与する等、大学発ベンチャー支援の国内の草分け。製薬企業向けマイルストーン契約の締結等、知財の事業化の実績を積む。2011年4月、京都に合同会社SARR設立。起業家教育、NEDOの科学技術商業化プログラムの企画・運営等、ハイテクスタートアップの支援等を行っている。慶応(経)卒、仏INSEADにてMBA、北海道大学にて医学博士取得。文部科学省科学技術・学術審議会委員等公職多数。

専門分野：起業家支援、科学技術の商業化、ベンチャーファイナンス、バイオ産業
www.sarr-llc.com

2016年12月3日（土）

ポジティブシンキング



安達 宏昭

株式会社創晶 代表取締役社長

【概要】

大阪大学発ベンチャー「株式会社創晶」を2005年に設立し、10年以上が経過します。起業のきっかけとなる新技術の研究開発は、異分野連携による成果です。産学連携、企業同士の業務提携など、補完的な関係が構築できるパートナーと連携することで、新しい価値を創出してきました。連携がうまくいくためには、個々人のメンタル状態やコミュニケーションスキルが鍵を握っています。私は、2001年に田中万里子先生(現在は当社顧問)と出会い、田中先生が開発した心理学的手法によるメンタルトレーニングが、とても効果的であることを実感しました。この出会いがなければ、革新的な技術創出やベンチャー起業もなかったかもしれません。その後、メンタルトレーニングの社会的なニーズが大きいと考え、2013年には当社子会社として「株式会社創晶應心」を設立し、心理学的な手法により、イノベーション創出を支援する活動をしています。当日は、皆様と一緒にメンタルトレーニングについて考え、「ポジティブシンキング」の重要性を認識できる話をしたいと思っております。受講生の皆様のマインドを変え、より豊かな人生を過ごせるようなヒントが得られる講義になれば幸いです。

【略歴】

2003年3月	大阪大学大学院工学研究科博士後期課程、電気工学専攻 修了、博士(工学)	
2003年4月	大阪大学大学院工学研究科 助手	2005年7月 株式会社創晶 代表取締役社長
2011年6月	社会福祉法人あおば福祉会 理事	2013年4月 株式会社創晶應心 代表取締役社長
2013年7月	柴又運輸株式会社 顧問	2014年5月 株式会社創晶大学 代表取締役社長
2016年1月	株式会社dotAqua 代表取締役社長	2016年2月 株式会社A・P・M 取締役
2016年3月	株式会社創晶超光 代表取締役社長	